

 TOYO SUISAN

東洋水産株式会社

証券コード：2875

東洋水産から株主の皆様へ

第62期決算のご報告

2009年4月1日～2010年3月31日



Smiles for All.

すべては、笑顔のために。

株主の皆様へ



代表取締役社長 **堤 ただす**

株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援を賜り、心より感謝申し上げます。さて、当社第62期（2010年3月期）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当社は1953年の創業以来50余年にわたり、顧客第一主義に基づき、「お客様により良い商品、サービスを提供することにより社会に貢献する」べく、創業時の水産物に始まり、1956年の魚肉ハム、ソーセージ、1962年のインスタント袋麺、1975年の生麺「3食入り焼そば」、1978年の「赤いきつね」並びに1980年の「緑のたぬき」の発売などマルチチャンブランドのもと、「安全でおいしい商品」「確実なサービス」をお客様にお届けする

ことを心掛けてまいりました。

グローバル化の進展により、これまでの産業構造が大きく変化している現在、食品業界は、個人消費の低迷、原材料価格の高騰、販売競争の激化と大変厳しい環境にあります。今後も法令を遵守し、「安全」、「安心」な商品をお客様にお届けするという基本を守るとともに、更なる発展を目指し、消費者ニーズにマッチした新商品の開発並びに育成、生産・販売・物流体制の効率化など「将来の収益確保」「経営効率の向上」を進めてまいり所存です。

これからも株主の皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

2010年6月

営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、前半は世界的な不況による景気後退の影響により企業収益が落ち込み、設備投資の抑制とともに雇用環境は悪化いたしました。後半からは輸出・生産活動等で回復傾向が見えましたが、雇

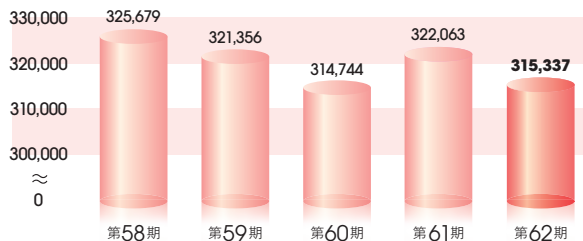
用環境の回復は見られず、消費者の購買意欲は伸張しませんでした。

当食品業界においては、一部原材料価格が引き続き高水準で推移し、製造コストの削減を迫られるなど企業間競

連結決算ハイライト

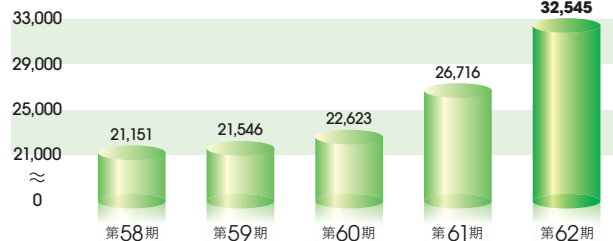
売上高の推移（百万円）

売上高 **315,337** 百万円



経常利益の推移（百万円）

経常利益 **32,545** 百万円





争は一層激しさを増し、依然として厳しい状況が続いております。また、消費者の食の安全面に対する意識はより一段と高まり、当業界は今まで以上に品質管理の強化への対応、環境問題への対応など企業の社会的責任がますます求められております。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組んでまいり

ました。また、厳しい販売競争に対応するため、グループの生産・物流体制の再構築を進め、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は前連結会計年度に比べ 2.1%減収の 315,337 百万円、営業利益は前連結会計年度に比べ 24.6%増益の 31,121 百万円、経常利益は前連結会計年度に比べ 21.8%増益の 32,545 百万円、当期純利益は前連結会計年度に比べ 33.8%増益の 18,506 百万円となりました。

次期の見通し

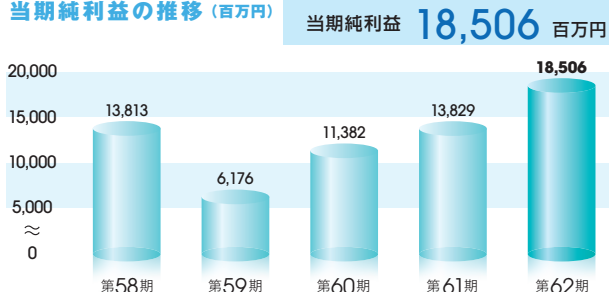
次期（2011年3月期）の見通しにつきましては、海外経済の改善を背景に景気の持ち直し傾向が期待されておりますが、依然として雇用情勢に厳しさが残り、デフレの影響など景気を下押しするリスクも存在しております。

当食品業界におきましては、個人消費の持ち直し傾向も見られるものの、消費者の生活防衛意識や低価格志向が続く中で、市場環境は厳しい状況にあります。また、食の安全・安心など企業の社会的責任がますます求められていくものと考えております。当社グループにおきましては、

さらに地域別・商品別の販売促進を強化した積極的な営業活動を実施するとともに、前期と同程度の経常利益の達成を目指しております。また費用面でもより厳しい販売競争に対応するため、物流の再構築・生産部門での徹底したコストの削減に注力していく所存であります。

以上により、通期の売上高は 320,000 百万円、営業利益は 30,000 百万円、経常利益は 31,400 百万円、当期純利益は 18,500 百万円を見込んでおります。なお、対米ドルの換算為替レートは 93.00 円で想定しております。

当期純利益の推移（百万円）



次期見込（2011年3月期）

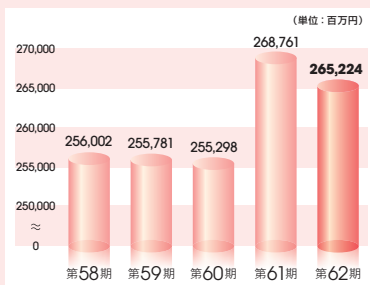
連結売上高 **320,000** 百万円

連結経常利益 **31,400** 百万円

連結当期純利益 **18,500** 百万円

加工食品部門

売上高 **265,224** 百万円



国内即席麺事業は、和風麺・「麺づくり」等の基幹商品の拡売と「四季物語」に代表される提案型新製品の発売により売上高は微増となりました。基幹商品である和風麺では、「赤いきつねうどん」「緑のたぬき天そば」をリニューアルしました。麺は新製法を採用し、よりなめらかで喉越しのよい麺に改良したとともに、まぐろエキスを隠し味にしたコクのあるスープに仕上げました。移ろい行く日本の四季を具材とデザインで表現した新ブランド・「四季物語」を3月に発売しました。また、長引く不況や低価格商品重視の市場環境に対応するためオープンプライス商品の品揃えも強化しました。11月に大盛りの「ごつ盛」シリーズをラーメンカテゴリーで発売、3月には「ごつ盛 ソース焼そば」を追加し、拡売に努めました。袋麺においては主力のノンフライ麺・「昔ながらの中華そば」「屋台十八番」等が堅調に推移しました。

生麺事業は当連結会計年度後半から顕著になった需要低迷に因る競争激化が進む中、各種消費者キャンペーンの実施やメニュー提案型新製品発売等により、焼そば類、ラーメン類は売上増となりました。

たが、素材型商品であるうどん類は競合低価格商品の影響が大きく、生麺全体の売上は減収となりました。また、新工場の設備投資に伴う減価償却費の増加、及び販売政策による販売促進費の増加の影響により減益となりました。

冷凍食品事業は、業務用冷凍麺・冷凍野菜は計画通りの推移となりましたが、調理品類の惣菜部門の売上減少を補えず冷凍食品全体では減収となりました。しかしながら、不採算製品の見直し、冷凍麺の新規開拓などが寄与し、増益となりました。

米飯事業及び魚肉ハムソーセージ類は、適正価格での販売に努めましたが減収となりました。調味料部門は、ほぼ前年並みで推移し、スープ部門は新製品の投入等により増収となりました。

また、海外の即席麺事業は順調に推移いたしました。

これらの結果、加工食品部門全体の売上高は前連結会計年度に比べ 1.3%減収の 265,224 百万円、営業利益は 26.3%増益の 29,582 百万円となりました。

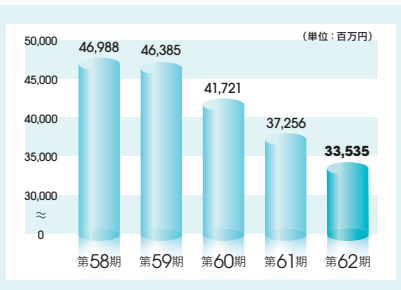
魚介類部門

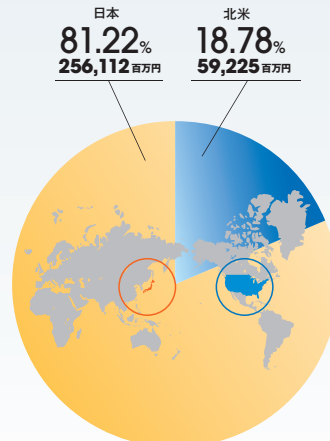
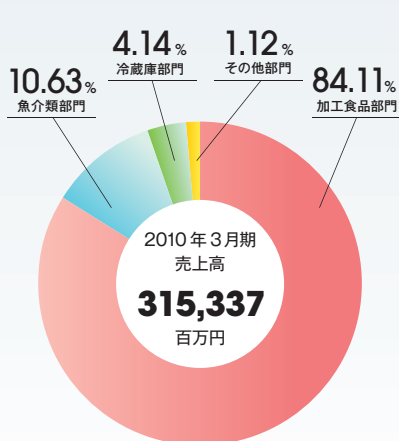
売上高 **33,535** 百万円



魚介類部門は、世界的な市況低迷や国内の低価格志向の影響を受け、すり身・サバ・シシャモ・カニ等の販売価格の下落、競争激化が続いた結果、売上高は前連結会計年度に比べ 10.0%減収の 33,535 百万円となりました。営業利益は、鮭鱒・魚卵製品の利益率が押し下げられましたが、すり身・カニ・ロブスター等の利益率が前連結会計年度より改善したこと、エビ・マグロ等の新商品の開発、販売を積極的に行った結果、前

連結会計年度に比べ 114.7%増益の 307 百万円となりました。





—— 売上高構成比(連結) ——

—— 所在地別売上高 ——

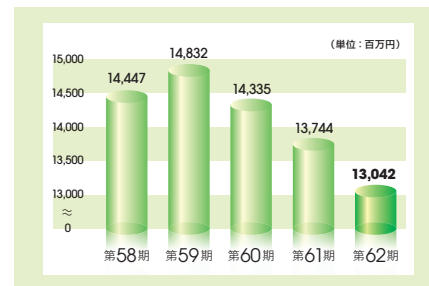
冷蔵庫部門

売上高 **13,042** 百万円



冷蔵庫部門は、国内事業においては、当連結会計年度後半より、輸入貨物を中心に各荷主の在庫圧縮が一段と進み、貨物の取扱量が減少する中で、代替貨物の集荷に力を入れたことにより、売上高は増収となりました。また、高収益貨物の取り込みや、経費の削減に力を入れ、営業利益は増益となりました。冷蔵庫部門全体では、前連結会計年度において米国のシーフリーズ L.P. の冷蔵庫部門を事業譲渡したことから、売上高は前連結会計年度に比べ5.1%減収の

13,042 百万円、営業利益は 5.9% 減益の 683 百万円となりました。



その他部門

売上高 **3,535** 百万円

その他部門は、主に輸入牛肉・輸入加工食品の販売並びに不動産賃貸であり、売上高は前連結会計年度に比べ53.7%増収の3,535百万円、営

業利益は前連結会計年度に比べ 17.1%減益の 579 百万円となりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度末 (2010.3.31 現在)	前連結会計年度末 (2009.3.31 現在)	
資産の部	流動資産 ◀ POINT01	108,609	113,424
	現金及び預金	31,134	33,000
	受取手形及び売掛金	39,004	39,191
	繰延税金資産	1,651	1,856
	その他	37,360	39,931
	貸倒引当金	△543	△556
	固定資産 ◀ POINT02	120,633	105,257
	有形固定資産	101,709	87,574
	無形固定資産	2,169	1,934
	投資その他の資産	16,754	15,748
資産合計	229,242	218,681	
負債の部	流動負債 ◀ POINT03	41,939	44,529
	固定負債 ◀ POINT04	17,014	15,463
	負債合計	58,954	59,993
純資産の部	株主資本	170,350	154,727
	資本金	18,969	18,969
	資本剰余金	22,516	21,412
	利益剰余金	136,951	121,503
	自己株式	△8,086	△7,157
	評価・換算差額等	△9,340	△7,697
	その他有価証券評価差額金	364	△260
	繰延ヘッジ損益	197	0
	為替換算調整勘定	△9,902	△7,437
	少数株主持分	9,278	11,658
	純資産合計 ◀ POINT05	170,288	158,688
負債純資産合計	229,242	218,681	

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結累計期間 2009.4.1～2010.3.31	前連結累計期間 2008.4.1～2009.3.31
売上高	315,337	322,063
売上原価	195,467	208,620
売上総利益	119,870	113,442
販売費及び一般管理費	88,748	88,464
営業利益	31,121	24,978
営業外収益	1,702	2,106
営業外費用	279	368
経常利益	32,545	26,716
特別利益	158	49
特別損失	1,900	2,293
税金等調整前当期純利益	30,802	24,473
法人税、住民税及び事業税	11,586	10,755
法人税等調整額	△85	△699
少数株主利益	796	587
当期純利益	18,506	13,829

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結累計期間 2009.4.1～2010.3.31	前連結累計期間 2008.4.1～2009.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー ◀ POINT06	29,254	27,226
投資活動によるキャッシュ・フロー ◀ POINT07	△25,272	△11,318
財務活動によるキャッシュ・フロー ◀ POINT08	△5,724	△3,572
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,250	△367
現金及び現金同等物の増減額	△2,992	11,967
現金及び現金同等物の期首残高	49,537	37,570
現金及び現金同等物の期末残高	46,545	49,537



連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2009年3月31日残高	18,969	21,412	121,503	△7,157	154,727	△260	0	△7,437	△7,697	11,658	158,688
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△3,057		△3,057						△3,057
当期純利益			18,506		18,506						18,506
自己株式の取得				△2,021	△2,021						△2,021
株式交換による変動額		1,103		1,092	2,196						2,196
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						624	197	△2,465	△1,643	△2,379	△4,022
連結会計年度中の変動額合計	-	1,103	15,448	△929	15,623	624	197	△2,465	△1,643	△2,379	11,600
2010年3月31日残高	18,969	22,516	136,951	△8,086	170,350	364	197	△9,902	△9,340	9,278	170,288

連結財務諸表 POINT

POINT

01 流動資産

流動資産は、前連結会計年度に比べ4,815百万円(4.2%)減少し、108,609百万円となりました。これは主に、現金及び預金、商品及び製品が減少したことによるものであります。

POINT

02 固定資産

固定資産は、前連結会計年度に比べ15,376百万円(14.6%)増加し、120,633百万円となりました。これは主に、建物及び構築物、機械装置及び運搬具が増加したことによるものであります。

POINT

03 流動負債

流動負債は、前連結会計年度に比べ2,590百万円(5.8%)減少し、41,939百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金、未払法人税等が減少したことによるものであります。

POINT

04 固定負債

固定負債は、前連結会計年度に比べ1,551百万円(10.0%)増加し、17,014百万円となりました。これは主に、負ののれんが発生したこと、退職給付引当金が増加したことによるものであります。

POINT

05 純資産

純資産は、前連結会計年度に比べ11,600百万円(7.3%)増加し、170,288百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。

POINT

06 営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ2,028百万円増加し、29,254百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益の増加によるものであります。

POINT

07 投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ13,953百万円増加し、25,272百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出の増加によるものであります。

POINT

08 財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ2,151百万円増加し、5,724百万円となりました。これは主に、自己株式の取得による支出があったことによるものであります。



個別貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当事業年度末 2010.3.31	前事業年度末 2009.3.31
資産の部		
流動資産	77,682	81,295
固定資産	102,872	84,537
有形固定資産	73,595	58,795
無形固定資産	1,745	1,280
投資その他の資産	27,532	24,460
資産合計	180,555	165,832
負債の部		
流動負債	68,516	61,592
固定負債	11,678	10,890
負債合計	80,195	72,482
純資産の部		
株主資本	100,078	93,650
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,516	21,412
利益剰余金	68,442	62,190
自己株式	△9,850	△8,921
評価・換算差額等	282	△300
その他有価証券評価差額金	278	△301
繰延ヘッジ損益	3	0
純資産合計	100,360	93,349
負債純資産合計	180,555	165,832

個別損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当事業年度 2009.4.1～2010.3.31	前事業年度 2008.4.1～2009.3.31
売上高	213,538	216,728
売上原価	125,229	128,222
売上総利益	88,308	88,505
販売費及び一般管理費	75,310	74,280
営業利益	12,997	14,225
営業外収益	2,809	2,220
営業外費用	510	587
経常利益	15,297	15,858
特別利益	562	38
特別損失	1,548	2,124
税引前当期純利益	14,310	13,771
法人税、住民税及び事業税	4,944	6,433
法人税等調整額	54	△767
当期純利益	9,311	8,104

個別株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

	株主資本										評価・換算差額等			純資産合計		
	資本剰余金				利益準備金	利益剰余金					自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計
	資本金	資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		特別償却準備金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金合計						
2009年3月31日残高	18,969	20,155	1,256	21,412	2,593	-	6,648	42,000	10,948	62,190	△8,921	93,650	△301	0	△300	93,349
事業年度中の変動額																
特別償却準備金の積立						638			△638							
固定資産圧縮積立金の積立							8		△8							
固定資産圧縮積立金の取崩							△586		586							
剰余金の配当									△3,059	△3,059		△3,059				△3,059
当期純利益									9,311	9,311		9,311				9,311
自己株式の取得											△2,021	△2,021				△2,021
株式交換による変動額			1,103	1,103							1,092	2,196				2,196
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）													580	2	583	583
事業年度中の変動額合計	-	-	1,103	1,103	-	638	△577	-	6,191	6,252	△929	6,427	580	2	583	7,011
2010年3月31日残高	18,969	20,155	2,360	22,516	2,593	638	6,071	42,000	17,139	68,442	△9,850	100,078	278	3	282	100,360



四季物語

伝えたいのは “季節のときめき”と“おもてなしの心”

素材で伝える

季節を感じさせるスープと具材は、旬の素材を中心にピックアップし、麺との相性や安全性、さらに保存性などの検討を重ね厳選しております。また、大きめの具材もたっぷり入るように、口径を大きくするなど、容器にも工夫を施しています。

パッケージで伝える

パッケージは四季折々をイメージした風呂敷をモチーフに、日本ならではの“はんなり”（上品で、明るくはなやかなさま）としたおもてなしの心を表現しています。風呂敷のイメージは、生地選びからすべてオリジナルで制作し撮影したものを用いています。

売場で伝える

商品をうどん、ラーメン、焼そばの3カテゴリーにわたって展開することで、売場を広く確保し、さらに統一されたカラーリングで、その一角に季節感を演出。存在感が際立ち、日頃カップ麺を手にとらないお客様にも強いアピールとなっております。

プロモーションで伝える

ゼロさんを起用したテレビCMも大好評です。CMデータバンクの調査による業種別CM好感度ランキングではインスタント食品のCMとして1位を獲得しております*。



*2010年3月20日～4月4日調査分

第二弾 「夏のときめき」シリーズ好評発売中!

「夏のときめき」シリーズは旬の素材に“青唐辛子”をフィーチャー。暑い季節にうれしいさわやかな辛さが好評をいただいております。



詳しくは「四季物語」ブランドサイト <http://www.shiki-monogatari.jp/>

第一弾「春のときめき」シリーズも大好評でした

3月29日に発売した「春のときめき」シリーズは、発売後3日間の売上が、即席麺部門の3月の売上の6.5%を占めるなど、勢いのあるスタートを切り、発売後2週間で50万ケースを突破いたしました。

春夏秋冬に対する意識が非常に高い日本人ですが、カップ麺売場には今まで四季感がありませんでした。そこで誕生したのが、期間限定ながら市場初々季節限定の商品「四季物語」です。季節ごとに変わる楽しみ（ときめき）と召し上がった際の満足感（おもてなし）を感じていただけるブランドをめざしました。



会社概要

創立

1953年3月25日

本社

〒108-8501

東京都港区港南二丁目13番40号

電話 (03)3458-5111(代表)

資本金

189億6,952万円

従業員数

1,920人

事業所数

工場8、冷蔵庫13、

支店・営業所28

関係会社

33社(海外8社含む)

支店・営業所

- ◆札幌支店 (札幌支店、旭川営業所、函館営業所、帯広営業所)
- ◆東北支店 (仙台営業所、青森営業所、盛岡営業所、秋田営業所、福島営業所、山形営業所)
- ◆信越支店 (新潟営業所、長野営業所)
- ◆北関東支店 (栃木営業所、茨城営業所、群馬営業所)
- ◆東京支店 (東京営業所、千葉営業所、埼玉営業所、神奈川営業所、甲府営業所)
- ◆静岡支店
- ◆名古屋支店 (名古屋支店、金沢営業所)
- ◆大阪支店
- ◆中四国支店 (中国営業所、四国営業所)
- ◆福岡支店 (福岡支店、沖縄営業所)

冷蔵庫

- ◆札幌冷蔵庫
- ◆石狩冷蔵庫
- ◆大井埠頭冷蔵庫
- ◆平和島冷蔵庫
- ◆城南島冷蔵庫
- ◆東扇島第一冷蔵庫
- ◆東扇島第二冷蔵庫
- ◆東扇島第三冷蔵庫
- ◆名古屋冷蔵庫
- ◆神戸冷蔵庫
- ◆舞洲冷蔵庫
- ◆福岡冷蔵庫
- ◆佐賀冷蔵庫

役員 (2010年6月25日現在)

代表取締役社長	堤 殷
代表取締役専務	織田 睦彦
専務取締役	小畑 一雄
取締役	目羅 甚一
取締役	谷口 文夫
取締役	佐藤 勝英
取締役	山内 寛
取締役	山下 透
取締役	三浪 博行
取締役	菅原 謙二
取締役	手嶋 専市
取締役	吉野 廣治
取締役	近藤 英次
取締役	下井 敦美
取締役	及川 雅晴
取締役相談役	深川 清司
常勤監査役	北村 勝久
常勤監査役	南 守之
社外監査役	高良 明
社外監査役	森 勇

工場

- ◆札幌工場 ◆関東工場 ◆埼玉工場 ◆相模工場 ◆焼津工場 ◆田子工場 ◆神戸工場 ◆福岡工場

主要グループ企業

国内連結子会社

- ◆八戸東洋株式会社 ◆甲府東洋株式会社 ◆フクシマフーズ株式会社 ◆東洋冷凍株式会社
- ◆サンリク東洋株式会社 ◆株式会社酒悦 ◆新東物産株式会社 ◆東部貿易株式会社
- ◆伊万里東洋株式会社 ◆株式会社フレッシュダイナー ◆株式会社東京商社
- ◆銚子東洋株式会社 ◆ユタカフーズ株式会社 ◆石狩東洋株式会社 ◆ミツワデリー株式会社

海外連結子会社

- ◆MARUCHAN, INC. ◆MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- ◆MARUCHAN DE MEXICO, S.A. de C.V. ◆SANMARU DE MEXICO, S.A. de C.V.
- ◆PAC-MARU, INC.

非連結子会社 他

- ◆ヤイズ新東株式会社 ◆三幸養魚株式会社 ◆埼玉東洋株式会社 ◆湘南東洋株式会社
- ◆東和エステート株式会社 ◆スルガ東洋株式会社 ◆下田東水株式会社
- ◆海南東洋水産有限公司(中国) ◆湛江東洋水産有限公司(中国)
- ◆株式会社いらご研究所 ◆青島味豊調味食品有限公司(中国) ◆仙波糖化工業株式会社*
- ◆ヒガシマルインターナショナル株式会社 *持分法適用関連会社



株式の状況

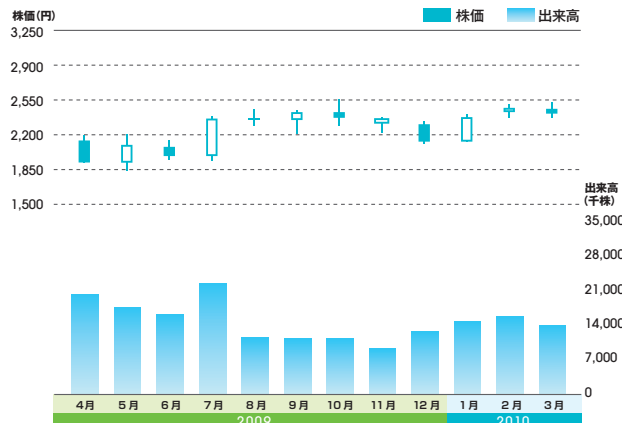
発行可能株式総数…………… 427,000,000 株
 発行済株式の総数…………… 110,881,044 株
 株主数…………… 5,920 名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	5,852	5.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,635	4.53
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,124	3.06
株式会社三井住友銀行	2,935	2.87
ピーイーエチフォーリアルリアルインシュランスプロダクツ エフティースリーエムアイディーキャップポート	2,524	2.47
マルちゃん持株会	2,015	1.97
あいおい損害保険株式会社	2,014	1.97
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,853	1.81
株式会社榎本武平商店	1,659	1.62
東友会	1,590	1.56

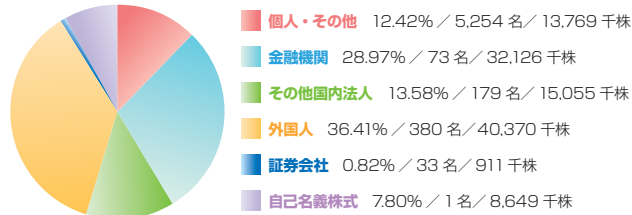
(注) 出資比率は自己株式(8,649,249株)を控除して計算しております。
 (注) 出資比率は小数点以下第2位未満を四捨五入して計算しております。

株価及び売買高の推移 (東京証券取引所)



株式分布状況

所有者別



所有株数別



(注) 所有株数別株式分布状況は自己株式(8,649,249株)を控除して計算しております。

株主優待制度



3,000円相当の製品例

当社では、株主の皆様への利益還元策の一環として、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

今年につきましては、3月末現在、1,000株以上ご所有の株主様に対し、3,000円相当の自社製品を、3,000株以上ご所有の株主様に対し5,000円相当の自社製品をそれぞれ6月に進呈させていただきました。

●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 アドレス http://www.maruchan.co.jp/
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに 日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)

●株式に関する各種手続きについて

・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受領方法の指定等

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

・特別口座から証券会社の口座への振替申請

特別口座の株式については、単元未満株式の買取請求を除き売買ができません。売買を行う場合は証券会社の口座への振替が必要になります。お手続きの詳細は、上記「株主メモ」記載の電話照会先にご確認ください。

・未払配当金の支払請求

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

ゆうちょ銀行の貯金口座で配当金をお受取いただけます

配当金の振込先として、銀行等の預金口座に加えて、ゆうちょ銀行の貯金口座もご指定いただけます。

希望される場合は、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

社会活動への取り組み



24時間テレビ 「愛は地球を救う」に協賛

東洋水産は、日本テレビと全国の系列31局が主催・放送する「24時間テレビ 愛は地球を救う」に協賛しております。

2009年8月29日・30日の2日間、当社は番組の実施に合わせて、本社・工場・関係会社の近郊6拠点(東京都港区、札幌市、新潟市、名古屋市、大阪市、佐賀県伊万里市)にて街頭募金活動を行いました(名古屋市は29日、伊万里市は30日のみ)。当日は夏休み最後の週末と重なったこともあり、家族連れなど人も多く、たくさんの皆様から募金をいただきました。



(左上) パネルやのぼりを使って募金の呼びかけを行いました。
(左下) 特設ブースも設置しました。
(右上) 子どもたちも、お小遣いで募金に協力してくれました。

東洋水産は、2010年も「24時間テレビ」に協賛予定です。小さなお子様からお年寄りまで幅広い層の皆様が参加する、チャリティー活動の一助になればと考えております。